

タイトル:平成 29(2017)年度 教育セミナー(第 13 回)

日時:2017 年 9 月 14 日(木)~17 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室(303)

「ムスタファ・ケマル・アタチュルクによる日本への言及」

田中 みなみ(九州大学大学院人文科学府)

私は、9 月 14 日から 17 日にかけて開催された中東☆イスラーム教育セミナーに参加した。セミナーは受講生による研究発表と講師の方のセミナーの 2 つに分かれており、どちらも非常に刺激的で、知的好奇心をくすぐるものであった。ここでは、受講生として参加、および発表させていただいた立場から、同セミナーについての感想を述べることにする。

前述のように、セミナーは受講生の研究発表および講師の方によるセミナー授業の二部構成である。受講生の研究発表は、ディシプリンの違いや専門の違いを超えて議論が行われ、同年代の研究者の研究姿勢を垣間見ることができて大変有意義なものであった。とくに、私は九州という首都圏から遠い地方を拠点としているため、普段は他の大学の方、とくに同年代の研究に触れることが少ない。そのため、今回のセミナーで他大学の方々の発表および質疑の際の着眼点は新鮮で、ぜひ今後の研究生活に取り込みたいと感じるものが多々あった。さらに、自分の発表でも、学生や教員に関わらず、さまざまな意見や疑問点をあげていただいた。その意見のなかには、自分では考えていなかったことや自分の研究テーマの発展先などを提示していただいたものもたくさんあり、発表の機会をいただけて本当によかったと感じている。

また、講師の方々によるセミナーでは、研究内容に始まり、研究の手法や研究者としての心構え、経験など、多岐に渡ってさまざまなことを聞くことができた。それは、毎日違う講師の方から熱意溢れるセミナーを聞くことができるという何とも贅沢な時間であり、中東☆イスラーム教育セミナーだからこそ可能な貴重な学びの場であったといえよう。このような、専門やディシプリンを問わない講師の方々のお話は、知的好奇心を刺激するだけでなく、研究とは何たるものなのかを多角的に照らしてくれるものであった。さらに、セミナーの合間では、先達である研究者の方々から私の研究に関連する史料や、書籍、そして留学についてなど、さまざまな情報を教えていただき、非常に充実した 4 日間をおくらせていただいたように思う。

このように、今回のセミナーで得られた経験や意見は総じて大変貴重なものであった。是非とも今後の研究生活に活かしていきたい。

最後に、このような貴重な学びの場を作ってくださった先生方、事務局の千葉様、そして参加者の皆様に厚く御礼を申し上げます。遠方からの参加にも関わらず非常に親切にいただき、まことにありがとうございました。